

## 歩行中の交通事故

かつては交通事故死者全国ワーストワンを続けていた北海道も、近年は大きくその数を減らしています。でも、高齢者に限ってはそれほど減少していません。そのため全体に占める高齢者の事故割合は次第に高くなっていきます。

高齢歩行者の特徴としては、心理面では「先急ぎ」「自分の

都合」といった傾向が顕著です。

一方で個人差はあるものの視力や聴力、筋力などは確実に衰えていますから、心理面の傾向と相まって、危険な状況に陥ってしまうと考えられます。身体機能の低下は避けられない以上、心の持ち様を改めることが事故を防ぐ大きなポイントなのではないでしょうか。

以上にしっかり確認する必要があります。

## ●押しボタン信号機は遠慮せずに押す

押しボタン信号機のある横断歩道は積極的に利用してください。「走っているクルマを自分一人のために止めるのは…」と遠慮する人がいます。でも交通事故を防ぐためにはまず自分の安全を第一に考えてください。

## ●外出時は明るい色の服装を

歩行者交通事故を防ぐには、外出する時の服装も大切です。クルマの運転者に自分のことをしっかり認識させるためには、周囲に溶け込んでしまわないよう、明るく目立つ色が効果的。周囲が見えにくい夜間の外出時は特に重要です。雪が積もる北海道では、冬季間、白っぽい服装は避けた方がいいでしょう。

## ●夜光反射材を活用する

夜間の外出時に効果的なのが夜光反射材です。靴やバッグ、帽子、傘や杖、衣服などに貼り付けるもので、クルマのライトが当たると反射して運転者に注意を促す効果があります。ホームセンターなどで販売されているので容易に入手できます。

## 歩行者交通事故を防ぐ



ここに  
ご注意ください

## ●急がない、焦らない

高齢になると先を急ぐ傾向があります。例えばバスの時刻が迫っている、歩行者信号が点滅し始めたといった場合、横断歩道まで行かずに道路を渡ったり、自分の脚力や歩行速度を考えずに無理をするなどのケースが多々あります。目の前のことにすぐに反応するのではなく、一旦立ち止まる、次のバスを待つ、信号を1回待つといった心の余裕が交通事故から自分の身を守るために不可欠です。

## ●自分の都合で道路を渡らない

交差点や横断歩道のある場所まで行くのが面倒、歩道橋を渡るのは大変だから、バス停まで斜め横断の方が近いなどなど、自分の都合で危険な横断をしていませんか？また、クルマは止まってくれるはずと都合よく考えていませんか？このような行動は大変危険です。身勝手な判断ではなく、交通ルールやマナーを守ることが交通安全の基本です。

## ●しっかり確認する

右側だけ確認して道路の横断を始めてしまう人を見掛けることがあります。当然ながら左側からクルマが走ってくれば、道路の中央で立ち往生することになります。これも大変危険な横断です。近くに横断歩道や交差点が無い場合など、やむを得ず道路を横断する時は、右側、そして左側をしっかり確認し、もう一度右側を確認してから、横断するよう心掛けてください。クルマは来ないだろう、渡れるだろうといった「だろう」判断ではなく、来るかもしれない、渡り切れないかも知れないという「かもしれない」判断を習慣付けてください。

## ●夜間の外出は控える

やむを得ない理由を除き、夜間の外出は控えましょう。夜間は足元や周囲の状況が見えにくく、クルマからも歩行者が見えにくい場合がありますので注意が必要です。また、幹線道路など道幅の広い道路では、高速で走っているクルマもありますので、日中